

令和 7 年 5 月 1 日

都道府県支部 理事長 様

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

専務理事 小山 吉男



2025 年事業実施における熱中症事故防止について（通知）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、今夏も全国的に気温が高いと予想されておりますが、4 月時点でも平均気温を大きく上回る高温が記録されています。夏季に限定せず、競技者ならびに関係者の暑熱順化ならびに熱中症予防対策を実施し、安全を最優先とした大会実施ならびにチーム活動の実施を地域ごとに慎重にご判断いただきますようお願い致します。なお、実施の場合は、十分な熱中症予防対策を行い、万が一の緊急事態に備えた体制・設備・備品等の環境を整えることが必須であり、環境が十分でないと判断される場合は、基本的に中止の判断をお願い致します。

最後に、都道府県支部におかれては末端支部および所属チームに対しても本件を周知されるようお願いいたします。

以上、何卒よろしくお願いいたします。

記

1. 大会運営時の熱中症予防対策

- ✓ 大会へ医師・看護師・BLS(Basic Life Support:一時救命処置)資格保持者等の配置
- ✓ 試合実施時間の工夫(1 日で最も気温の上がる時間帯を避ける等)
 - * 12 時～16 時は試合実施禁止など
- ✓ 開閉会式等の式典の簡素化や時間短縮に努める（状況により式典の中止を推奨）
 - ※式典プログラムの変更・工夫や式典中の飲料持参など
- ✓ イニング間に給水タイムを設ける（最低 5 分間）
- ✓ 守備時間が 20 分（目安）を経過した場合、給水タイムを設ける（最低 5 分間）
- ✓ 給水タイム時は、選手、審判員はベンチ等、屋内にて休養を取る
- ✓ チームベンチ内に、給水要員を配置し、選手対応を行う
- ✓ ダブルヘッダーの禁止

2. 参考資料

- ✓ スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック（日本スポーツ協会）
<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html>
- ✓ 環境省熱中症予防情報サイト(環境省)
<https://www.wbgt.env.go.jp/>
- ✓ JSBB 危機管理マニュアル（全日本軟式野球連盟）
<https://jsbb.or.jp/docs/8e764cc1ee8e3f0d2969d7ccf84c264a8a01f277.pdf>

3. 添付資料

JSBB 熱中症予防対策ガイドライン(全日本軟式野球連盟)※令和 7 年 5 月 1 日改定版

以上

全軟野連発第 89 号

令和 7 年 5 月 1 日

加盟チーム 代表者 様

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

専務理事 小山 吉



2025 年チーム活動における熱中症事故防止について（通知）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、今夏も全国的に気温が高いと予想されておりますが、4 月の時点で平均気温を上回る高温が記録されております。夏季に限定せず暑熱順化を実践し、競技者の熱中症予防をはじめとする安全を最優先としたチーム活動への深いご理解とご協力を下記の通りお願い致します。なお、都道府県支部に対しても同様に、熱中症予防対策に係る注意喚起を通知しておりますことを申し添えます。

以上、何卒よろしくお願いいたします。

記

1. チーム活動における熱中症予防対策

- ✓ 「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドライン(日本スポーツ協会)を参考に熱中症事故防止のための適切な措置を講ずること
- ✓ 特に 7 月・8 月は、WBGT31 を超える日（運動は原則禁止）が非常に多いため活動時間を極力短縮し、1 日を通した活動は控える。
※活動時間は朝や夕方 of 涼しい時間帯を中心に 3 時間以内にする（涼しい屋内施設等の環境で活動する場合はその時間をこれに含まない）。
- ✓ 暑さ指数ならびに気温、湿度によって、練習や試合の実施を検討・中断・中止・時間変更などを柔軟に行うこと。
- ✓ 活動前(練習・試合)において、疲労度や睡眠状況、風邪症状・下痢の有無、食事をとっているかなどの確認を行い、活動に参加が可能な状態かを確認すること。
また、活動中においても、体調等に十分注意しコンディションチェックを心掛ける。＊心拍数、体温、体重、汗の outf 等
- ✓ グラウンド内にテント等の日除けを設置する(※設置には、安全に配慮すること)
- ✓ 活動中は、十分な給水時間と休憩時間を設ける
- ✓ 飲料は、水だけでなくスポーツドリンクや経口補水液等を準備する
- ✓ 身体冷却用の氷や水（氷嚢、保冷剤 等）を準備し、必要に応じて身体を冷やす

2. 参考資料

- ✓ スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック（日本スポーツ協会）
<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html>
- ✓ 環境省熱中症予防情報サイト(環境省)
<https://www.wbgt.env.go.jp/>
- ✓ JSBB 危機管理マニュアル（全日本軟式野球連盟）
<https://jsbb.or.jp/docs/8e764cc1ee8e3f0d2969d7ccf84c264a8a01f277.pdf>

3. 添付資料

JSBB 熱中症予防対策ガイドライン(全日本軟式野球連盟)※令和 7 年 5 月 1 日改訂版

JSBB 熱中症予防対策ガイドライン

令和7年5月1日時点

■JSBB 暑さ指数に係る実施方針

熱中症予防運動指針 (WBGT℃)		JSBB	会場（試合会場等）での対応
JSPO	環境省	熱中症予防対策指針	
	35℃（予測値）	試合の中止	当日の会場での WBGT 計測により試合の中止・順延を判断する。
	参考：熱中症特別警戒アラート発表		
	33℃（予測値）	試合の中止	当日の会場での WBGT 計測により試合の中止・順延・時間変更を判断する。
	参考：熱中症警戒アラート発表		
31℃以上 運動は原則中止 ※特に子どもの場合は中止にすべき	—	原則試合の中止	原則、試合は中止、中断、順延とするが、JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）の大会運営側の対応ならびに試合中のクーリングブレイクの確保が十分に取られている場合には、主催者の判断において実施することができる。 ※試合中に WBGT33℃を超えた場合は、試合を中止または中断する。
28℃～30℃ 嚴重警戒 激しい運動は中止	—	嚴重警戒	JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）に準じて試合を実施することができる。

【補足】

※JSBB 危機管理マニュアル（熱中症項目）については、赤線口で囲んでいる内容が該当となる。

※熱中症特別警戒アラートが発表された時には、大会本部にて実施検討会議を行う場合がある。

■全国大会における WBGT の計測の実施

➤ 学童少年部の全国大会において WBGT 計による計測を行う

- WBGT 計測は、大会運営側が下記の要領で実施し、今後の熱中症対策の指標として活用する。
- 計測は、競技日ごとに全会場、全試合で実施する。
- 1 試合における計測は 6 イニングの試合の場合は、試合前・2 回、4 回終了後・試合終了後の 4 回とする。
7 イニングでの試合の場合は、試合前・2 回、5 回終了後・試合終了後の 4 回とする。
9 イニングでの試合の場合は、試合前・3 回、5 回、7 回終了後・試合終了後の 5 回とする。
※試合前の計測する時間は、できる限り試合開始時間の直前とする
※タイブレーク方式、延長戦の場合は、2 イニングごとに計測を行う
- WBGT 計測器を地上から 1.1m～1.5m の高さで計測する。活動に支障がなく、運動実施個所になるべく近いところにする。

■熱中症の予防対策

大会運営側の対応

- 救護所を準備する。
- 球場には常時 WBGT 計測器を準備し、適時確認し選手の健康面に気を配る。
- ベンチでは選手、指導者をとりまくスペースに日射を遮る環境を整える。

- 緊急時に備え、氷、スポーツドリンク、経口補水液を準備すること。
- 審判、運営スタッフ、関係者等にスポーツドリンクを用意すること。
- 選手、保護者および観客等がスポーツドリンクを購入できる環境を整備する。万が一、施設内に自動販売機やスポーツドリンクが購入できない環境にある場合は、事前に参加者に周知すること。
- WBGT25℃以上が予測される場合、医務室および医務スペース周辺にアイスバス等の全身冷却が可能となるよう準備する。
※アイスバスが準備できない場合は、首、わき、足の付け根などの大きな血管を氷やアイスパックなどで冷や
すことができる物品を用意すること。
- 空調の効いた諸室等を準備する。

■試合当日の対応

- 原則 WBGT31℃以上の場合、試合は開始しない。 ※
※ WBGT31℃以上が試合中に予測される場合は、①・②を実行し、主催者の判断で試合を実施することができる。
- ① WBGT28℃以上の場合
 - ✓ 6 イニングでの試合の場合は2回、4回終了後に5分間のクーリングタイム（給水タイム・身体冷却タイム）を設ける。（3回終了後のグラウンド整備時にも積極的に給水・身体冷却を行うこと）
 - ✓ 7 イニングでの試合の場合は2回終了時、5回終了後に5分間のクーリングブレイク（給水タイム・身体冷却タイム）を設ける。
 - ✓ 9 イニングでの試合の場合は、3回終了時、5回グラウンド整備時、7回終了時に5分間のクーリングブレイクを設ける。
※タイブレーク方式、延長戦の場合は、2イニングごとにクーリングブレイクを設ける
 - ✓ 各イニングにて守備時間が20分以上に及ぶ場合は5分間のクーリングブレイクを取ることができる。
- ② WBGT25℃以上の場合も 上記同様の対応とする。
- ③ その他
 - 食欲不振、寝不足、体調不良者など選手の体調変化に目を配り、熱中症にならないよう最大限配慮する。（大会運営や試合進行など）
 - 試合中に熱痙攣になった場合、一時的（5分程度）に休息し様子を見る。試合中に同じ症状が出た場合は選手交代を促す。
 - 試合中に熱中症（中程度～重度）となった場合は速やかに選手を交代し医務室へ搬送する。（保護者およびチーム関係者のいずれかが選手に帯同する）
 - クーリングブレイク（給水タイム）について
クーリングを目的としているため日射を遮り、風通しの良い環境を作り休ませる。
冷却として氷嚢、冷却水で顔や頭、首やわきの下、鼠径部を冷やす。
冷却、給水に当てているため、指導者による作戦タイムとして活用しない。

■その他、対応が望ましい熱中症予防対策

- 散水設備が整う会場では、可能な限り、内野地域に散水を行いグラウンド温度を下げるのが望ましい。
（人工芝グラウンドの場合は、実施なし）
※6 イニングの試合の場合は、試合前・3回終了後とし、7 イニングの試合の場合は、試合前・4回終了後に実施する
- 両チームベンチ内に扇風機を設置することが望ましい。
- 試合時間は、可能な限り WBGT 値が高くなる時間帯（12時～16時）を避ける。
- 活動時間は極力短縮し、1日を通した活動を控える（*特に小中学生は注意を払う）
- 試合中、ベンチ内外を問わず、ネッククーラーの使用を認める。（接触等で破損しない素材の製品のみ使用可）